

あらおスマートヘルスケアサービス実証実験(あらおスマートシティ推進協議会)

■都市課題

人口減少、少子高齢化、医療・介護給付費増加などの荒尾市の社会問題に対しては健康寿命の延伸が必要であり、そのために「誰もが繋がりをもち健康でいきいきとした暮らしをつくる」ことを目指す。

■解決方策

自助と共助の浸透した社会を実現する。そのために健康に寄与する行動変容を促す「さりげないセンシングによるスマートヘルスケアサービス」を創出し普及させる。

■KPI

KPI①：平均自立期間
KPI②：健康行動を継続的に実行している市民の割合

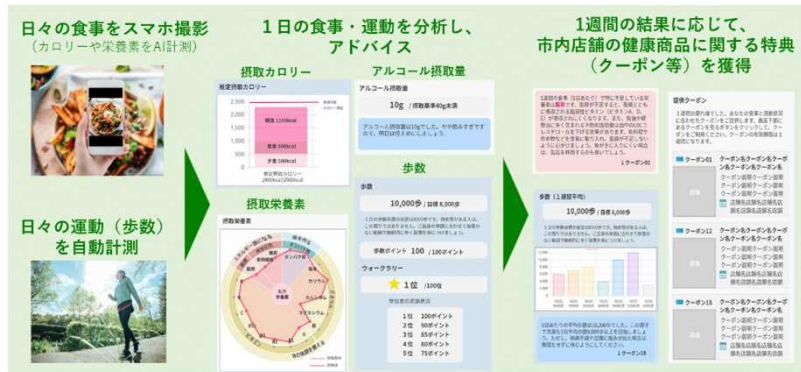
■実証実験の概要・目的

市民に健康的な生活習慣への行動変容を促すために、日常生活における食事(カロリー・栄養素)や運動(歩数)を計測し、健康状態の分析・可視化⇒行動・食事のリコmendを行うことで健康行動を促し、健康的な生活への行動変容を図ると同時に、市内のお勧め店紹介+クーポン発行により、市内店舗の利用を促し、地域経済の活性化に繋げるサービス(アプリ)の実証実験を実施。あえて有料サービスとして試行することで今後の社会実装・事業化に向けたリアルな課題を把握する。

■実証実験の内容

サービスの概要(生活習慣改善フォローアプリ)

スマートフォンアプリにて、毎回の食事を撮影することで摂取カロリーと栄養素をAIが自動算出、日々の運動(歩数)から消費カロリーを算出。それらデータから健康分析を行い運動や食事についてアドバイスすると共に、健康分析結果に応じた健康商品/サービスを扱う市内店舗の特典(クーポン等)を獲得できる。



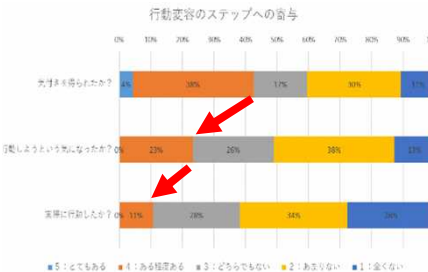
実証実験の概要

本サービス(アプリ)を市民に2か月間ご利用頂くことで、健康的な行動変容に繋がるか、継続的に使い続けられるか、利用料収入の可能性などについて、アンケート等を通して検証。あえて有料(月額300円×2か月)とすることで忌憚ない意見を把握する。今回は計68名の市民が参加。

■実証実験で得られた成果・知見

行動変容への寄与

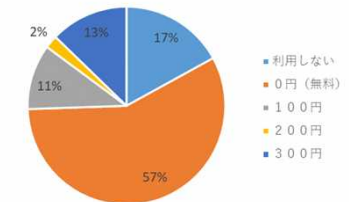
健康への気付きは42%に対して与えられたものの行動にまで繋がったのは11%。継続利用でき、かつ行動まで繋げるためのサービス(アプリ)の改善課題を把握。



利用料収入の可能性

被験者の26%は有料(300円未満)でも継続利用することによって可能性はゼロではないもののハードルは高い。PFS/SIBによる成果報酬等のビジネスモデルの確立が必要。

月額利用料がいくらなら本アプリを継続利用するか?



■今後の予定

2023年度 ~ 2026年度 ※スケジュールは他事業と調整の上決定

進行中の他サービス(デジタル健康手帳、血液検査による疾病リスク予測)との連携などによるサービス仕様改善

ヘルスケアサービスの段階的実装

競馬場跡地再開発事業への織り込み

都市OS/都市マネジメントの検討

分野間データ連携の実証・実装